

隔離が撤廃された香港の出入境

NPO 法人日本香港協会 広報委員 武田 信晃

新型コロナウイルスによって事実上、鎖国された香港。飛龍の99号で香港-日本間を往復する場合、隔離などを含めた各種手続きはどうなっているのかを書いた。その後、重症化しにくいオミクロン株が主流となり、香港も日本もついに隔離が撤廃された。現在はどうのようなプロセスなのかを紹介する。

◆ 日本⇄香港

渡航するには観光客やビジネスパーソンはワクチン接種を終え、14日以上経過していることが大前提であることに変わりはない。飛行機はキャセイパシフィック航空、日本航空 (JAL)、全日本空輸 (ANA) のほか、LCCの香港エクスプレスは2023年3月からコロナ前のレベルに戻すことを明らかにしている。運賃は、日本発は香港発ほど高騰していないものの、原油高による燃料サーチャージが上がっており、プラス3~4万円だ。渡航24時間前の抗原検査で陰性でなければならないが、香港国際空港での税関の手続きで見せる機会はない。念のため、検査キットに名前、日付、時間を記入し携帯電話で写真を撮っておくことをお勧めする。また、「健康及検疫資訊申報表」という電子フォームがあり、事前に必要事項を記入。終了するとQRコードが送られてくる。

香港国際空港到着後は、PCR検査が行われ (結果は後でSNSで通知される)、チェックポイントでQRコードを見せる程度。40分もあれば空港を離れることができる。あとは、MTRやタクシーなどで滞在場所に移動

する。到着翌日を1日目とカウントし、2日目に香港内にあるPCR検査場で検査を受ける必要がある。

これまで入境後3日間は飲食店などに入ることができない「0+3」だったが、12月14日よりその入場制限が撤廃され、念願の「0+0」になったほか、施設に入るには追跡アプリの「安心出行」を通じてQRコードを使わなければいけなかったが、その必要がなくなった。

◆ 香港⇄日本

3回のワクチン接種を終えていると隔離が不要となる。渡航前に「Visit Japan Web」というサイトにアクセスし、名前、住所、パスポート、3回のワクチン接種を受けた書類をスマホで撮影し、それをアップロードする作業などがある。すべてがOKになると画面が青くなり、日本の空港にあるチェックポイントでそれを提示する必要がある。PCR検査もないため、入国手続きはスムーズだ。



香港国際空港が1つの検疫所のような機能を持つ

2023年1月発行 (禁無断転載)

目次

| | |
|--|---|
| 隔離が撤廃された香港の出入境 | 1 |
| 香港特別行政区設立25周年記念ビジネスセミナー&ネットワーキングレセプション | 2 |
| 大好きな香港の街がギュッと小さくなって東京へ! | 3 |
| 香港再出発大連盟ミッション訪日 | 4 |
| 私と香港ビジネス 香港での思い出 | 5 |
| 第2回「アジア・グローバルヘルス・サミット (ASGH)」開催報告 | |
| 東京インターナショナル・ギフト・ショー 2023 春 | 6 |
| 連合会・各協会便り | |
| 全 国: 香港フォーラムのリアル参加が復活!! | |
| 第11回日本香港協会全国連合会総会開催 | 7 |
| 東 京: 第6回法人会員交流会を開催 | |
| ついに開催 ゴルフ大会 | 8 |

| | |
|-------------------------------------|----|
| 関 西: 香港特別行政区設立25周年記念香港昼食講演会2022開催 | |
| 「香港の集い」懇親パーティー開催 | 9 |
| 中 京: 旅行会社から見た香港 その2 | 10 |
| 九 州: 香港大学生の日本企業オンラインインターンシップの開催について | 11 |
| 山 形: 香港特別行政区設立25周年記念昼食講演会の開催について | 12 |
| 北海道: 新年好! 明けましておめでとうございます。 | 13 |
| 宮 城: 香港特別行政区設立25周年記念「昼食講演会2022」を開催 | |
| 宮城学生部・元気に活動中! | 14 |
| 沖 縄: 香港特別行政区設立25周年記念香港昼食講演会2022を開催! | 15 |
| 広 島: 香港特別行政区設立25周年記念 香港昼食講演会2022 | 16 |
| 新 潟: 香港における日本産米の情勢について | 17 |
| 高 知: 新年好! | 18 |

香港特別行政区設立25周年記念ビジネスセミナー&ネットワーキングレセプション

日本香港協会 全国連合会 事務局

2022年10月17日(月)、明治記念館「富士の間」にて、NPO法人日本香港協会・香港貿易発展局主催「香港特別行政区設立25周年記念ビジネスセミナー&ネットワーキングレセプション」が開催されました。コロナ禍の影響が懸念されましたが、NPO法人日本香港協会の会員のほか、関東地方の官界・財界から合計200名超の方々にお集まりいただき、約3年ぶりとなる大規模なリアルイベントを滞りなく終えることができました。ご臨席いただきました皆様、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

ビジネスセミナーの部では、NPO法人日本香港協会の佐藤征洋会長の開会挨拶、香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ日本首席代表の歓迎挨拶に続き、香港特別行政区駐東京経済貿易代表部のウィンサム・アウ首席代表代行の来賓挨拶の後、カルビー(株)オーバーシーズカンパニーの小泉貴紀執行役員グローバルブランディンググループ長より「カルビーのグローバル事業における中華圏と香港の役割と重要性」と題して、基調講演が行われました。小泉氏は、同社の2022年3月期における海外売上高644億円(全社売上に対する構成比23.2%)のうち、中華圏向け売上高が196億円(海外売上に対する構成比30.4%)に上ることに触れ、その先駆けとなった香港の重要性について説明しました。香港で最も売れているポテトチップはHot & Spicyタイプで、「熱浪」という商品ブランドは現地パートナー企業の社長が命名、長年にわたる店頭プロモーション活動が奏功して、香港人消費者の間で広く受け容れられるようになったそうです。

続くパネルディスカッションでは、「日本企業にとっての香港市場の魅力とその活用法」をテーマに、モデレーターとして、東京理科大学経営学部国際デザイン経営学科の中野嘉子教授を、パネリストとして、キュービーネットホールディングス(株)の松本修取締役管理本部長、プリモグローバルホールディングス(株)の林雄一取締役、(株)東急モルズデベロップメント未来創造本部企画部の河合徹マネージャーを、それぞれお招きし、香港進出の経緯から現在の事業概況に即した議論が展開されました。その後、香港貿易発展局の伊東正裕東京事務所長(NPO法人日本香港協会理事)から香港貿易発展局と日本香港協会の事業紹介があり、香港経済貿易代表部投資推進室(インベスト香港)橋場清子室長から「インベスト香

港による香港事業進出支援サービス」に関する説明があり、ビジネスセミナーの部は幕を閉じました。

ネットワーキングレセプションの部では、香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ日本首席代表の歓迎挨拶に始まり、東京都の坂本雅彦産業労働局長からの来賓挨拶、中華人民共和国駐日本国大使館の楊宇臨時代理大使による乾杯挨拶の後、参加者間の歓談・交流時間となりました。参加された方々からは、香港の最新のビジネス状況が良く分かった、香港市場の魅力や香港が果たす役割が変わらないことを知って安心した、やはりリアルな交流に勝るものはないといった声が、多数寄せられました。コロナによる規制が緩和されたとはいえ、今現在は、到着後3日間は健康観察期間が設けられている香港ですが、一日も早い規制の完全撤廃に対して大きな期待が寄せられています。NPO法人日本香港協会、香港貿易発展局としましても、感染防止対策をとりながら、今後も様々なイベントを開催して参りますので、引き続きご支援の程、宜しく申し上げます。

日本香港協会と香港貿易発展局は、東京のほか、日本香港協会が拠点とする福岡市(九州日本香港協会3/17)、新潟市(新潟日本香港協会5/10)、高知市(高知日本香港協会7/8)、札幌市(北海道日本香港協会8/31)、仙台市(宮城日本香港協会9/15)、大阪市(関西日本香港協会9/29)、広島市(広島日本香港協会10/4)、山形市(山形日本香港協会10/29)、那覇市(沖縄日本香港協会11/18)、名古屋市(中京日本香港協会12/5)でも、香港特別行政区設立25周年をお祝いするイベントを開催しました。



左から、松本修、坂本雅彦、ベンジャミン・ヤウ、佐藤征洋、楊宇、ウィンサム・アウ、小泉貴紀、中野嘉子、林雄一、河合徹の各氏

大好きな香港の街がギュッと小さくなって東京へ！

日本香港協会 広報委員 隅田 香織



「わー！ 3回目はこんなミニチュアがあるんだ！」

2022年7月に東京で「香港ミニチュア展2022」が開催されました。香港にいつもある変わらない風景、今はもうなくなってしまった懐かしい風景、香港の伝統的な季節イベントの風景など、そんな今と昔の「香港」をミニチュアで楽しむことができるので、本当に楽しいイベントなのです。

コロナで香港渡航がままならず、イベント自体も自粛方向にあった昨今。久しぶりに「香港」を味わうことができるイベントの開催は、私もとても楽しみでした。ミニチュア展が開催されるたびに、新しい作品との出会いにワクワクします。

今回は再開が進む観塘地区とビクトリアハーバーのミニチュアが気になりました。特に観塘の「裕民坊」ビルはコロナ禍で取り壊されてしまいましたが、私が大好きな香港映画『天使の涙』の撮影で使われた場所でもあり、思い出深い建物です。

ビクトリアハーバーでは花火が上がったり、海の上を走るスターフェリーが実際に動いているのに興奮しました。コンベンションセンターもあるし、実際にはビクトリアハーバーにはなかったですが今年閉店してしまったジャンボレストランも浮かんでいました。ジャンボの姿が見られただけでも感無量です。

猫が大好きな私は、ミニチュアの中にいる香港猫探しも楽しみのひとつ。売店の先に店主と一緒に並んでいる猫、お店の軒先に売り物のように寝転んでいる猫、意識して探さないと見つけられない猫などなど。今回は何匹探せるか？が私の中での密かなミッションです。

また、伝統的な季節イベントのミニチュアも豊富です。長洲島の饅頭祭り、ドラゴンボートレース、中秋節のファイアドラゴンダンスなど、どれも早くリアルに観に行きたいイベントばかり……。そして、現在、保存工事中の「皇都戲院」（第一級の歴史的建造物として認定されているものでは唯一の大劇場）の在りし日の光景。新しくどのように変わるのかも楽しみです。昔ながらの姿も懐かしいです。

次に、今ではほとんどなくなってしまった「茶樓」（「茶樓」とは昔ながらのスタイルで飲茶を楽しめるレストランです）。鳥かごを持ったおじさんたちが飲茶を楽しみながら、愛鳥を自慢する風景も今では激減しましたが、懐かしい香港の風景です。今はもう香港を走っていない熱狗巴士も懐かしく感じました（「熱狗巴士」とはエアコンが装備されていない旧式の九龍バスのことです）。

「ああ、こういう風景あったよね！」「懐かしいね！」と、まるでミニチュアの中を自分が歩いているように想像しながら魅入り、そしてたくさんカメラに収めました。もう言葉では書ききれないくらい楽しみました。

香港が大好きな人もたくさん来場していらっしゃいましたが、通りすがりの親子連れも「わー！すごいね！」と足を止めていました。香港に行ったことがない人でも楽しめるし、香港好きにはたまらないミニチュアもある、老若男女問わず楽しめるイベントだと思いました。また次回の開催が今から楽しみです。

〈プロフィール〉

隅田香織／NPO法人日本香港協会広報委員。ブログ「香港ウンチク話」管理人。日本から大好きな香港情報と日本で楽しめる香港情報を発信中。2022年11月より、HIS香港とレッツゴーホンコンのユニット「タビボイス香港」を開始。



香港再出発大連盟ミッション訪日

NPO法人日本香港協会 会長 佐藤 征洋

2022年7月12日、当協会は「香港再出発」を掲げるビジネス代表团のご招待にあずかり、香港の現在の問題と将来の発展について意見交換をする貴重な機会を得る事ができました。

訪日代表团は、元香港政府行政長官の梁振英（C.Y. Leung）氏が団長を務め、香港経済界の重鎮らを引き連れて東京を訪問、日本の主要な財界団体や企業と意見交換をすることを目的としたものでした。

代表团のメンバーは、Carlson Tong（Mass Transit Railway取締役）、Sunny Chai（Hong Kong Science & Technology Park 会長）、Raymond Lee（Lee & Man Paper Manufacturing Ltd 会長）、Andrew Yao（Hong Kong Shanghai Alliance Holdings Limited 会長）、Nicholas Ho（設計師）、に加え大連盟事務局のLawrence Fung（Project Officer）、Kristine Yang（元行政長官秘書）の各氏で、団長を含め合計8名、日本側は日本香港協会会長の小職のほか、中江隆比古（協会理事・日立製作所）、貴島道太（協会理事・三井住友海上保険）、山脇徹哉（協会法人会員・三井住友信託銀行）、Benjamin Yau（協会全国連合会事務局長・HKTDC日本首席代表）、伊東正裕（協会理事・HKTDC東京事務所長）各氏の6名が対応しました。

団長以下全員の名刺には「香港再出発（HONG KONG COALITION）」と天を指す三角形の特別ロゴが印刷されており、香港の再出発に対する強い意志を想起させます。私は、数年前からの政治的混乱から落ち着きを取り戻した現在こそ一国二制度の下、再出発を期して、海外の重要パートナーを訪問するものと理解しました。

はじめに、団長である梁振英元行政長官から、当協会への日ごろからの協力に謝意の表明があり、今後の香港の発展の方向性について説明がありました。香港は既に混乱を収めて一国二制度が有効に機能していること、金融・物流センター機能等の優位性の維持に加え、新たな技術的イノベーションへの注力により香港がテクノロジーの中心としても重要な存在であり続けるとの決意表明、更には広域経済圏である広東・香港・澳門大湾区の将来的発展可能性、その他後背地である華南地域における様々な新計画により益々商機が創出されるとの自信に満ちたコメントがあり、さらには、新規プロジェクトの一つとして、海南島を自由貿易区（Free Trade Port）として発展させる計画と、香港の参画についても説明がありましたが、これは注目すべき新たな動きであると思われま

す。これに対して、当協会の参加者からも、様々な意見を披露しました。例えば、本来的に日本の経済界は香港の経済的重要性を良く認識していることを説明する一方、具体的な障害として、日本の

マスメディアが香港について報道する際に、政治問題に焦点を当てたネガティブな論調が大勢を占めていることに対する懸念についてお伝えしました。具体的には、現地の駐在員から経済・ビジネス状況の実態、それに基づき新たな提案を本社側に申し出ても、最終判断を下す本社側が逡巡するケースがありがちという傾向について紹介しました。そのほか、喫緊の課題として、一時に比して緩和されているとはいえ、香港におけるコロナ隔離政策の問題があるため、日本-香港間の自由な往来の大きな障害となっており、具体的な商談の実行の困難性、ひいては香港の実体を理解することの難しさにつながっている点について指摘しました。

代表团メンバーとしても、そのような事柄はよく認識しているとのことで、だからこそそのような誤解を解くために、今回日本を実際に訪問し、説明に尽力しているとのことでした。当協会としましても、この様なハイレベルな代表团と直接面談し、意見交換ができたのは大変意義深いことであったと思われま

香港再出発大連盟

2020年5月5日、元行政長官で全国政協副主席を務める董建華（C. H. Tong）氏と梁振英（C. Y. Leung）氏の2人が総召集人を務め、共同発起人には全国人民代表大会（全人代）常務委員の譚耀宗氏（事務局長）、基本法委員会副主任の譚惠珠氏、財界人の李嘉誠氏、李兆基氏ら1,545人が名を連ねた非政府組織（NGO）「香港再出発大連盟（HONG KONG COALITION）」が発足した。董建華氏は発足の挨拶で「香港が克服すべき三大危機」として、パンデミック、経済、政治を挙げ、「一国二制度を堅持し、経済を復興し、法治を守り、団結を取り戻し、香港を難局から脱却させる方法を考える」ことを呼びかけている。



左から、Kristine Yang、Sunny Chai、Raymond Lee、Andrew Yao、C.Y. Leung、Carlson Tong、Nicholas Ho、伊東正裕、貴島道太、Benjamin Yau、筆者、山脇徹哉、中江隆比古の各氏

私と香港ビジネス 香港での思い出

NPO法人日本香港協会 理事 脇田 誠

◆ 旅立ち

2015年5月3日午後、私は香港の地に降り立った。日本はGWの真っただ中。旅行を楽しむ家族連れを横目に、50歳を過ぎて今日から始まる海外での单身生活に一抹の寂しさを感じた。

◆ 現地社員と歩んだ日々

私が勤務する凸版印刷は、多くの海外現地法人があり、赴任した凸版印刷（香港）有限公司は、第二次世界大戦後最初に設立した海外法人で、香港のローカル雑誌や欧米向け書籍などを永きに渡り印刷していた。当時の工場はQuarry Bayで、香港島と九龍半島をつなぐ東区海底トンネルを出たループしたあたり、今の太古坊にあった。その後、再開発により、工場移転を余儀なくされた。移転先はMTR屯馬線に乗り、新界のLong Ping駅からバスで15分ほど行ったサイエンスパークが運営する元朗工業団地である。ここでトッパン・フォームズ香港とともに雑誌および個人情報を含む印刷物（DMなど）の製造・発送やキャッシュカードやプリペイドICカードやポイントカードなどの製造・発送を手掛けるアジア随一規模の総合印刷工場群を確立させた。

私はこれまで営業での業務が長く、海外での製造現場を担うのは初めてだった。現地の風習や習慣、現地社員の技量やモチベーションを斟酌しながら、日本の品質を求めることに苦心した。工場は国内同様24時間操業・交代制勤務である。あるとき台風シグナル8となり、風雨が強まり、現地社員が工場に来られないという事態が発生した。シグナル8が発令されても、新聞や雑誌など定期刊行物は納期通り配送しなければならない。出勤すべき従業員の住居エリアを会社のバスで臨時巡回させ、機械を止めず、納期に間に合わせた。

印刷は4色であらゆる色を再現している。微妙な掛け合わせや、髪の毛一本に満たない幅での見当合わせなど、熟練した技も多い。昨今の機械は、高度なICT制御により、ある程度の品質は保てるものの、トッパン品質を維持するにはその熟練した技に加え品質に対するこだわりも必要だ。それを海外の工場で、現地社員に根付かせなければならない。それも瞬間ではなく、常にその品質を維持させたい。さらには安全第一（けがや死亡事故を発生させない）で、組織を統制し、各個人には自立・自律を求め、仕事の出来に誇りを持ち、次の高みに挑戦していく。こうしたことを現地社員は実によく理解して、実務を遂行してくれた。

◆ 工場閉鎖

そのような歴史を50余年紡いできたが、2018年に転機を迎えた。私たちは、香港での出版印刷を停止すると決めたのだ。この時点でも香港でのローカル雑誌のシェアは70%をキープしていたが、日本同様デジタルシフトや活字離れの潮流から印刷需要が減る中で、私たち外

資系企業の操業停止は、地元印刷会社への印刷需要シフトに繋がり、それは私たちの果たすべき道と考えた。これは広東エリアにおける当社の出版印刷系製造拠点としては、深圳工場閉鎖に次ぐ大規模製造拠点の閉鎖となった。一般的に外資系企業が、彼の地での工場閉鎖や事業撤退時において、当局や自国の総領事館が気にするポイントは、現地社員に対する解雇での対応だ。どういうプロセスで、どういうインセンティブをつけて、どう説明するのか？できる限り丁寧に進め、ストライキやロックダウンは可能な限り避けなければならない。このため、私は工場閉鎖計画の早い段階から、内々に総領事館に相談を持ち掛けた。また現地に精通した人材会社をお願いし、念入りに現地社員の解雇をはじめ操業停止計画を組み立てた。

ひとつ難しい課題があった。閉鎖に伴う印刷物供給停止については、得意先である現地出版社や新聞社には、半年前に通達する必要がある。それは現地社員の耳にも入る。果たして解雇通告後半年間も、これまで通り働いてもらえるのか。モチベーションを下げずに、最後まで工場一丸となって、機械を回せるのか、品質は担保できるのか。最後は機械設備類の売却まで行う必要があった。これも現地社員の力が必要だった。さてどのように現地社員に周知すべきか、これには相当頭を悩ませた。結果全て杞憂に終わった。閉鎖日まで一人残らず仕事を投げ出すことなく、最後まで自身の仕事を全うしてくれたのだ。これは凸版香港の現地社員と駐在員が長い苦楽の歴史の積み重ねの上に培った深い信頼関係の証だと思う。そしてこれが香港の人たちの気質なのだ。

香港に進出している日本企業は数多あるが、製造を生業にしている企業は少ない。今回の出版系印刷工場閉鎖は残念だが、私たちは、なにかしらの爪痕を香港に残せたのだろうか。工場閉鎖に関する香港や中国大陸系の新聞・TVの論調は、概ね好評で、英断だとのコメントもあった。しかし私は全く満足感を得ることはなかった。最終日の夕方通用口の陰から、小雨の中黙々と帰路に着く現地社員を見送った。家族はどう思うだろうか。そして先人は何を語るだろうか。悔しくて情けなくて涙で視界がぼやけた。二度と経験したくない出来事だった。

◆ 最後に

さて私事になるが、2022年6月の早朝、家内が梅雨空の雲間にみせた青空に架かる虹の橋を渡っていった。深刻な病状が発覚したのは私が香港駐在の時だ。それ以来、私にとって、仕事の課題以外は、日本にいる家内の病状が大きな課題だった。

一般的には安全で華やかで楽しく、自身の成長が実感できる香港赴任だが、私の場合は湿っぽい話が多い。これも湿度の高い香港での一幕だったということで、お許しいただきたい。

第2回「アジア・グローバルヘルス・サミット (ASGH)」開催報告

香港貿易発展局 東京事務所 マーケティング・マネージャー 後藤 亜希郎

香港政府と香港貿易発展局は2022年11月10日～11日に、第2回「アジア・グローバルヘルス・サミット (ASGH)」を香港のリアル会場（コンベンション&エキシビジョンセンター）とオンライン配信とのハイブリッド形式で開催しました。同時開催の医療展「香港国際メディカル&ヘルスケア・フェア」と合わせ、両イベントには68カ国・地域から約3万人が参加し、期間中280以上の個別投資商談（ディール・フロー・マッチメイキング・セッション）と600以上のビジネス商談も並行して行われました。



サミットの講演者には各国政府や国際機関の代表者、医療専門家やイノベーター、投資家、ビジネスリーダーなど80名以上が含まれ、中国本土における医療の発展、エボラ出血熱やCOVID-19の課題、GBAで加速するイノベーション、資金調達とイノベーションのハブとしての香港の役割など、幅広いテーマについて最新の知見が披露されました。また、医療用ロボット工学の応用や人工知能 (AI) の倫理、ヘルスケアにおけるESG、メンタルヘルスのグローバルな課題などに関する新たなトレンドについても共有されました。

初日の対話セッションでは第一東方投資集団の諸立力 (ビクター・チュー) 会長がモデレーターを務め、欧州委員会の特別顧問で、1976年にエボラウイルスを共同発見したことで知られるロンドン大学衛生熱帯医学大学院のピーター・ピオット教授が講演者として招かれました。同教授は、グローバルヘルスのより持続可能な未来に向けた課題と、今後アジアが同分野でどのように貢

献できるかについて語りました。

また、「中国のヘルスケアセクターの次なる展開」と題したセッションでは、香港政府医務衛生局の蘆寵茂 (チョンマウ・ロー) 長官が、「中国は医療、特に治療や病院ベースのサービスからコミュニティベースのサービスへの転換で目覚ましい進歩を遂げている」と語り、モデレーターを務めた高齢者委員会のドナルド・リー委員長は、「GBAにおける医療サービスの高い需要が、企業や医療従事者に多くの新しい機会を生み出している」と述べました。「GBAにおけるイノベーションが促す世界のヘルスケア業界の変革」のセッションでは、GBA、特に深圳は、各大学での研究活動が盛んで、新たなイノベーションの拠点になることが紹介されました。

ロンドン大学UCL疫学・公衆衛生学部教授マイケル・マーモット卿によるセッションでは、健康格差の解消には企業や業界の関与が不可欠であることが指摘されました。日本からは東京大学大学院医学系研究科の橋本英樹教授が参加し、新たな公民連携手法であるソーシャル・インパクト・ボンド (SIB) モデル事業の日本での取組事例にも言及されました。

香港貿易発展局のStart-up Express2021の受賞企業の一つであるPanopticAIは、今回のサミットでのビジネスマッチングの成功例の一つとなりました。同社は特許取得済みのAIとアルゴリズムを用いて、普通のレンズを通して被験者の心拍数、呼吸数、血圧、ストレス指数などの健康データを瞬時に取得することができる技術を有します。同社は今回、香港貿易発展局の協力のもと、サミット初日にグレンイーグルス香港病院と覚書を締結し、今後は香港の病院での研究成果をさらに活用し、より多くの人々の健康に貢献することを目指します。

香港貿易発展局は、今回のサミット成功を踏まえ、次回2023年は時期を5月に移し、サミットと展示会に加え、より多くの充実した関連イベントを開催することにより、世界における医療・健康産業のリーディング・ハブとしての香港の地位をより一層強化する予定です。

東京インターナショナル・ギフト・ショー2023 春

香港貿易発展局 東京事務所 貿易引合主任 ジェーミー・シー

2023年2月15日～17日に開催される「東京インターナショナル・ギフト・ショー 春」に、香港の卓越したデザインサービスや成熟したデザイン市場を紹介するキャンペーンイベント「香港アトリエ」が登場します。本イベントは2年の時を経て実現する待望の企画展で、これらを手掛けた香港のデザイナー6名が来日、ライフスタイル製品からファッションアクセサリ、プロダクトデザインなど、様々な香港ブランドが紹介されます。

【来日する香港ブランドと展示製品】

ARVenture Studio：ギフト&プレミアム、ノベルティ照明具、ソフトウェア開発ツール、

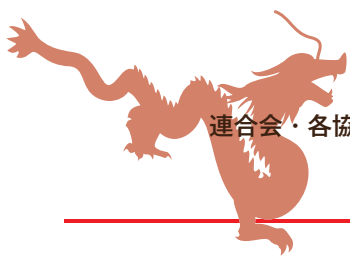
DRIPDROP；HAMDAMA：コーヒーマーカー&アクセサリ、キャンプ用品、スキルトイ&玩具

Absolute Vintage：眼鏡、ファッションアクセサリ

Ditto Ditto：グリーティングカード、メモ用紙、用箋セット

Qivation：ホーム&リビング、照明器具、文具

Someday Stationery：ギフト&プレミアム、文具&オフィス用品、玩具&ゲーム



NATIONAL

全国連合会

日本香港協会全国連合会 会長 佐藤 征洋

香港フォーラムのリアル参加が復活!!

香港フォーラムは、長きに亘るパンデミックの影響により、過去2回はオンライン開催となっていましたが、今年は11月29～30日、待望の現地でのリアル参加を含むハイブリッド開催が実現しました。

日本からは、オンライン参加者が約130人、現地参加者は東京4名（現地在住理事含む）、関西2名、宮城1名、合計7名でした。コロナ前は100名近い大部隊で常に参加者数No.1の座を占めてきたことを考えると寂しい限りですが、小職自身リアルに参加できたことは無上の喜びでした。

世界全体では合計36ヶ国・地域から現地リアル参加者が約100名を数えましたが、一同いつものフォーラム同様、活発且つ熱く意見交換するなど、懐かしい顔ぶれと交流する風景が見られました。主催者である香港ビジネス協会世界連盟の熱の入れようは大変なもので、斬新なプログラムを準備してくれました。西九龍の220億香港ドル（日本円約3,960億円）の文化施設プロジェクト、空港の拡張現場、香港サイエンスパークへの訪問のほか、中国本土の経済状況に関するパネルディスカッション、若手企業家による新たな事業機会に関する情報共有等盛りだくさんの内容でした。



HKTDCラム会長と

中でも注目されたのは、初日の李家超（John Lee）行政長官のスピーチでした。冒頭で、力強く「Hong Kong Economy is back!」と香港の経済回復に自信を示し、後背地として中国・大湾区という大市場の存在、一国二制度が機能していること、政府が戦略的事業に300億香港ドル規模の投資を行うことに加え、若手研究者への支援策についても示されました。また香港が国際金融センターであること、国際競争力ランキングが昨年と比べて2ランク上昇していること、フレイザー研究所からは引き続き世界で最も自由な経済と認定されたこと、RCEPや他市場とのFTA締結についても触れ、具体的な発展可能性が紹介されました。

今回、香港の実業家、友人や関係者との対話や街の風景からは、「やはり香港もコロナに痛めつけられたな」との辛い印象を強く受けました。観光客は殆どゼロ、過去混雑の極みだった観光スポットは閑散としており、土産店は殆どシャッターが降ろされ、多くのレストランは閉店か規模縮小に追い込まれています。個人的には、第二の故郷である香港の早期の経済回復、日本・香港間の経済・文化交流が更に深まることを切に願ってやみません。



Federation幹部と日本香港協会メンバーの晩餐会

日本香港協会全国連合会 事務局

第11回日本香港協会全国連合会総会開催

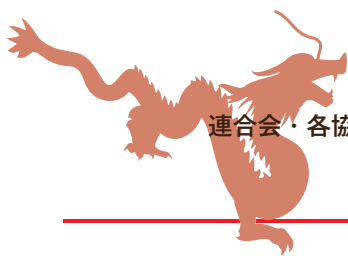
例年香港フォーラムの前日に、香港にて開催される全国連合会の総会は、本年もフォーラム開催前にオンライン形式で開催されました。今回の香港フォーラムは、ハイブリッド開催であったため、現地参加者のプログラムを勘案し、フォーラム開催前日の11月28日(月)16時からの開催としました。また、連合会会長の佐藤征洋氏が、香港フォーラムにリアル参加されるに当たり、総会が移動時間と重なってしまったため、連合会副会長（関西協会会長）の戒田真幸氏に議長を務めていただきました。北海道協会を除く全国各地の10協会の代表者のほか、大島維久子監事（東京協会理事）、ベンジャミン・ヤウ事務局長（HKTDC日本首席代表）が出席し、無事に全ての議事を終えることができました。全ての式次第を終えた後で、出席された各地協会の代表者の皆様から一言ずつコメントをいただくこともできました。短時間ではありましたが、地域を越えて出席者同士が交流する時間

が持てましたので、充実した総会となったと思われます。

また例年ですと、香港フォーラム参加者の皆様にご出席いただく前夜祭（全国交流会）の場におきまして、在香港日本国総領事館の代表者にご挨拶をいただいておりますが、今年もオンライン開催となりましたため、総会終了後に、岡田健一総領事（大使）をお招きし、香港の最新状況について、メッセージをいただきました。僅か20分という短い時間でしたが、一国二制度、国家安全法、香港における司法の独立性等について、香港の現状を丁寧にご説明いただき、大変有意義なセッションとなりました。改めまして岡田総領事（大使）に対しまして、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。



日本香港協会全国連合会総会と岡田健一総領事（大使）のご講演（Zoom会議）



第6回法人会員交流会を開催

2022年11月16日、ビジネス交流委員会では、3年ぶりとなる対面による法人会員交流会を開催致しました。現在、当協会の法人会員数は、理事の皆様のおかげで40社に達しております。この場をお借りして、関係各位に対し深く御礼申し上げます。

今回の会場は、協会の法人会員でもある(株)田中コーポレーションがフランチャイズ経営する香港海鮮料理の名店「喜記(ハイゲイ)」で、法人会員、理事合わせて20名超が参加する交流会となりました。本場香港で修業された山崎浩一料理長が腕を振った特別コース料理は、参加された香港人と香港通の日本人を唸らせるほどの味で、皆様には大変ご満足いただけたものと考えております。

交流会は、冒頭に佐藤会長のご挨拶と、法人会員でもあるCarbon Brews社の香港産クラフトビールによる乾杯の音頭で幕を開けました。同社は2018年に香港の火炭(Fo Tan)で誕生し、そのユニークなクラフトビールは数々の国際的な賞を受賞されています。2022年3月には、世界一号店となるタップルーム「Carbon Brews Tokyo」を赤坂にオープン、クラフトビールに合う香港の家庭料理や屋台飯を中心とした個性豊かな料理を提供されています。

そのほか、先月入会されたばかりの(株)サンヨープレジャーは、岡山に本社を置く玩具卸・小売に加え、おもちゃ王国(テーマパーク)の運営など子供関連の事業を展開されている会社ですが、お二方にご出席いただき

ました。同じく新規法人会員であるデリックス合同会社の歐陽代表は、日本において香港の食文化を広めるためのプロジェクトを企画されています。アジア・中国事業に力を入れている(株)三井住友信託銀行からは、香港を担当されているお二方にご出席いただきました。

また、日頃から当協会の活動にお力添えをいただいている香港貿易発展局の伊東所長、インベスト香港の橋場室長にもご参加いただきましたが、香港に関する相談事があればいつでも対応できる方が理事であるのも、新規法人会員にとっては心強いことであろうと考えております。

美味しいクラフトビールと香港料理とも相俟って、2時間がとても短く感じられる楽しい情報交換の場となったと思われます。また、参加者の方々からも、忘れかけていたダイレクトコミュニケーションの大切さを再認識する良い機会となったとの声も寄せられました。次回以降も、パンデミックの状況が許せば対面式による法人会員交流会の開催を検討したいと考えておりますので、引き続き皆様方からのご参加を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。



NPO法人日本香港協会 理事 古川 真理子

ついに開催 ゴルフ大会

開催日の2022年9月28日は昨年同様、快晴に恵まれたこれ以上ない完璧なゴルフ日和。日本香港協会ゴルフ大会はコロナ禍を耐え抜いた後、参加者、協力団体等皆様の支援を得て、都心に近い埼玉県東松山の高級感あふれる清澄ゴルフ倶楽部で、満を持して開催実現の運びとなりました。

参加者は当協会会員、理事等の関係者及び広く一般参加者を加えた合計34人。特に友好団体の日本シンガポール協会からは10名以上の応援参加がありました。協会会員の紹介者、元駐シンガポール大使、実業家、ビジネスパーソン、シルバー世代、モデル、何組かの夫婦等多様な皆様にご参加いただきました。

競技はダブルペリア方式で、順位は実力と運の組み合わせの結果。プレイヤーはOBでも、多く叩いても、ここが隠しホールだろう?と期待しながら、仕上がり最高のグリーン上でスリーパット、フォーパットも何のその、楽しく笑いながらのラウンドとなりました。

プレー後の懇親会では、先ず当協会会長が参加者への感謝を述べ、ゲスト代表として日本シンガポール協会渡邊会長からお言葉を頂き、その後の順位発表では法人会員各社、関係各位からご支援頂いた沢山の賞品を半数以上の方が受け取られ、香港貿易発展局からは全員に参加賞が贈られました。ちなみに、優勝の栄誉に輝いたのは当協会法人会員のバルビエコーポレーション(株)吉岡社長でした。

久々にリアルでのコンペ&懇親会で明るく盛り上がり、リアル交流の素晴らしさを改めて実感しました。来年もゴルフを通じて協会の認知・入会に広がるような楽しい機会を設けていきます。





KANSAI

関西日本香港協会

関西日本香港協会 事務局

香港特別行政区設立25周年記念
香港昼食講演会2022開催

日中国交正常化50周年記念日の2022年9月29日に、帝国ホテル大阪で香港特別行政区設立記念の香港昼食講演会を関西日本香港協会と香港貿易発展局の主催、大阪商工会議所との共催で実施しました。日本貿易振興機構(JETRO)、中小企業基盤整備機構、関西経済連合会、大阪国際経済振興センター、日中経済貿易センター、日中経済協会。キャセイパシフィック航空の後援と香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部の協賛で約150名の招待客が大変和やかで友好的な雰囲気の昼食講演会を楽しみました。

招待客は、駐大阪中国総領事館2名、近畿農政局1名、公益財団法人(大阪産業局他)10名、独立行政法人(JETRO他)4名、一般財団法人(大阪国際経済振興センター他)5名、一般社団法人(日中経済貿易センター他)9名、公益社団法人(関西経済連合会他)3名、西日本府県(沖縄他)18名、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部4名、香港貿易発展局5名、地方銀行7名、一般企業34名、関西日本香港協会50名でした。会は、関西日本香港協会の戒田真幸会長の開会挨拶で始まり、香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ日本首席代表が歓迎挨拶をし、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部のウィンサム・アウ首席代表代行と近畿農政局の出倉功一局長が来賓挨拶をされた後に、中華人民共和国薛劍駐大阪総領事が乾杯挨拶をされて会食が始まり、各テーブルの皆さんはなだ万の和食を食べながら親しく交流されました。



中華人民共和国薛劍駐大阪総領事乾杯挨拶

約30分の昼食を楽しんだ後、香港貿易発展局のリッキー・フォン大阪事務所長が「香港・GBA(大湾区)の今を知る」と題した講演をし、香港に注力している日本企業の動向や発展する中国南部GBAの現状とビジネスチャンス詳しく解説しました。続いて、関西日本香

港協会の理事、チョーヤ梅酒(株)の金銅重弘代表取締役が「中国への入り口香港への転換」と題した講演をされました。金銅社長は自ら率先垂範してチョーヤ梅酒の輸出と現地でのブランド化に注力しておられます。香港には30年以上前に進出され、「香港からアジアへ、そして世界へ」を実現しておられますので、金銅社長の経験に基づくアドバイスが大変印象深い講演でした。



チョーヤ梅酒金銅社長の講演

講演の後、インベスト香港の中田武正氏がインベスト香港の活動内容を紹介され、最後に関西日本香港協会の田中義次副会長の閉会挨拶で25周年記念事業の昼食講演会を終了しました。

今回、盛会であった香港と関西の交流イベントを通じて、日本と香港との友好・ビジネス交流が更なる発展を遂げ、香港を通じた中国との友好・親善が若い世代を中心に良い方向に向かうことを願った有意義なイベントになったと思います。

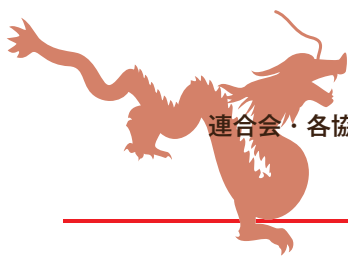
「香港の集い」懇親パーティー開催

コロナ禍での大阪府の会食自粛規制により一昨年から会員の懇親パーティーが開催出来ない状況が続いています。コロナの感染第7波が終末を迎えてコロナ感染者数が激減し会食自粛規制が解除されたタイミングで、9月27日に中華料理・大阪聘珍楼で久しぶりに会員懇親パーティーを開催しました。44名の参加者が、親しい会員同士で積極的に交流し、美味しい広東料理とラッキードローを楽しみました。



「香港の集い」乾杯





旅行会社から見た香港 その2

私が昭和50年代に勤務した旅行会社の有楽町支店で展開した「GO! GO! 魅惑の香港4日間」キャンペーンについてご紹介したいと思います。当時、有楽町支店は新設支店でしたので、固定客もおらず、どのような企画を売り込めばよいのか、私を含めて8名の営業マンが知恵を絞っていました。議論の結果、商店街の歳末のセールや紳士服チェーン店、お弁当チェーン店、中小スーパーの店舗、家具のチェーン店などをターゲットとすることにしました。私が考えた「〇〇を買って、香港へ行こう!」と銘打った企画は、小売店とのタイアップによる香港優待旅行で、「3泊4日の香港の旅で39,800円!」という衝撃的な価格を前面に出したものでした。当時、8~10万円くらいはする香港旅行が3万円台ですから、かなり注目を集めたと思います。おまけに地元の商店や企業とのタイアップですから信用力もあり、常連客やそのお知り合いなどで大変な売れ行きとなりました。

販売は、8人の営業マンが、山手線外側の私鉄沿線の駅を一つ一つ降りて、企画書を新聞少年のように配って歩きました。私は、西武池袋線の担当でしたが、全員が都内の主要私鉄幹線に張り付き訪問する毎日、まさにローラー作戦です。1日20~30軒ほど回りましたが、昼間は忙しくて相手にしてもらえず、企画書を置いてくるだけのケースもありましたが、セールスを開始した翌月には、「この企画面白そうなので話に来てくれ」という依頼がぼつぼつ舞い込むようになり、企画の説明に来て欲しいというお客様が20軒はあったと記憶しています。

家具のチェーン店の場合は、昼間ではなく夜の7時から会合があるのでその席に来て説明をして欲しいといった依頼もあり、昼夜を問わず営業をした結果、多くのお客様の優待セールに香港の企画を使っていたこととなりました。

我々の企画の主たる狙い目であった商店街は、今でこそさみしいかな、廃れてしまっていますが、当時は、まだまだ流通における存在感がありました。そういう意味では、我々の香港旅行企画が商店街の皆様のお役に立ったことは非常に嬉しかったことを覚えています。

さて、歳末セールで香港旅行の企画を採用していただくことは決まったものの、実際の集客はそこから始まります。我々はどれくらい人が集まるのか、非常にワクワクする一方で、本当に人が集まるのか不安も感じていました。優待旅行の申し込みまでの流れは、先ずセールの期間設定を設定し、期間中に一定金額の商品を購入したお客様がキャンペーンに申し込み、申込用紙は、1組4名までに限定しました。4日間のツアー内容は、初

日の夕方に成田発、夜に香港着、2日目は終日香港市内観光、3日目は自由行動若しくはマカオへの日帰りツアー、4日目の昼頃に香港を発って成田に帰着、ツアー料金には朝食3回・昼食1回・夕食（アバディーン水上レストラン）1回が含まれていました。宿泊は香港島のホテルプラザ（現Park Lane）クラスで旅行代金は39,800円ですから、内容的にも价格的にも良いツアーであったと思います。

優待旅行企画のクライマックスは、購買需要が大きくなる歳末セール期間でしたが、年末年始から翌年の3月までの間に、香港へ行きたいという人が殺到し、結果的に3,000人以上を集めることができました。私は、正月もそっこのけで、お客様の渡航手続きに奔走し、その後は添乗員として香港渡航の本番です。私は、1~3月は、毎週のように木曜日に香港へ飛び、日曜日には帰国するという行程を12回繰り返しました。1回毎のツアーのお客様の人数は、100~250名だったかと思います。支店のオープンが7月でしたので、半年の間にこれだけ多くのお客様を香港へ送り出すことができたのは、大きな驚きであったと同時に、香港という土地の魅力と売り易さ、多くの人を惹きつけることができた企画の勝利だと考えています。

最後に、なぜこれだけ安い価格のツアーが実現できたのかについて、説明しましょう。それは、航空券の仕入れにヒントがありました。当時、パンアメリカン航空は、サンフランシスコ→成田→香港、カナダ航空は、バンクーバー→成田→香港というルートで、両方ともジャンボジェットを飛ばしていました。しかし、実際に主にお客様が利用していたのは、アメリカ西海岸から成田まで、成田→香港はガラガラ状態であったため、そこに目をつけてパンアメリカン航空とカナダ航空から安値で航空券を仕入れることができたのです。これは、まさに機材の有効利用が生んだ成功例だと思います。



アバディーンの水上市レストラン前にて（左端に立っているのが筆者）

香港大学生の日本企業オンライン インターンシップの開催について

当会は2021年度より、香港新華基金の支援のもとで、毎年香港嶺南大学、香港都会大学より約30名の香港の大学生を対象に、「香港でのマーケット展開」をトピックとしたオンラインインターンシップを行っています（参加企業：ピエトロ、鷹正宗、シーアンドイー、ネクストイノベーション、クラウン製パン、SoTalk、レイナ、福岡地所、久原本家、和香園、九州農水産物直販、CAVIN等）。香港の大学生には、日本企業のビジネス環境やマナー、海外展開に必要なリサーチ力を身につける良い機会です。また、受入企業には、香港→中華圏→世界への展開に必要な調査を学生と共に行うことで、海外マーケティングのインサイトを得ることはもちろん、社内のグローバル人材育成にも良い機会です。

今回は、2022年のピエトロでのオンラインインターンシップについて、ご担当の長坂様、参加学生のFenixさん、Mathisさんの感想を通して、当会の香港大学生の日本企業オンラインインターンシップについて報告致します。

◆ 受入企業レポート～株式会社ピエトロ 海外事業課・コミュニケーションデザイン室 長坂 沙知子

昨年夏、株式会社ピエトロでは初の試みとなる「香港都会大学および嶺南大学オンラインインターンシップ」を2回開催し（香港都会大学：7月15日～29日、嶺南大学：8月1日～31日）両大学の学生に就業体験をしていただきました。オンラインでの開催ではありましたが、とても優秀な学生たちと有意義な時間を過ごしました。

大学ごとに決めたテーマ「香港都会大学／ピエトロを香港でインスタグラムを使って広めよう：100名フォロ

ワープラスに！」「嶺南大学／香港でのプロモーションを成功させよう」に向け、まずはピエトロの事業内容を学び、その後、ものづくりへのこだわりや、お客様に対する想いなどへの理解を深めるという流れで進めました。

実習プログラムでは、「SNSマーケティング概要の把握」「PRのアイデア提案」「効果的な広報手法についてのディスカッション」を経て、実際にピエトロのSNSに投稿したり、香港の小売店スタッフへのインタビューで意見を集約するなど、社員の日々の業務を体験いただきました。

インターンシップの間はずっと、香港の学生の高い熱量を感じていました。どのチームもミッションに本気で向き合い、限られた時間の中でも妥協せず、メンバー全員で力を合わせてゴールを目指す姿も頼もしかったです。

今回のインターンシップは、コロナ禍で香港への渡航が難しい中、現地の方々と交流できる貴重な機会でした。香港のお客様の食に対する興味や志向などタイムリーな情報は、弊社の海外事業を展開する上での課題解決や今後の販促展開へのヒントとなり、香港での新たな取引や販路拡大と、さらなる“ファンづくり”への取り組みを現地の学生と共に実践できたことは大きな収穫でした。



ピエトロ インターンシップ

インターンレポート① 香港嶺南大学 Fenix (Ho Man Kin)

It is my great pleasure to participate in the 'Japan Language Culture Learning & Internship Program 2022'. I am glad to be one of the interns of Pietro. I was aiming to learn Japanese and hoped to know the business structure of Japanese firms, and surely, I did achieve my goals.

During the internship, I was worried about communicating with the host company due to the language difference. Thanks to the patience of every member, communication no longer becomes a problem if we spend time explaining. The assignments we received encouraged us to experience actual business work, such as market research and competitor analysis.

I was specially assigned to do marketing research in the Hong Kong dressings and pasta sauce market, which is unlike the assignment of the University; I did research online and offline using the 4Ps to investigate the market and competitors. Since Pietro is trying to expand its business to Hong Kong where an unfamiliar place for them, so I must pay more effort into it. Not only market research but also designing POP cards which is the most impressive assignment for me. As I need to base it on the perspective of customers and Hongkongers to design an attractive POP card to catch the attention of Hong Kong customers to know about Pietro and try to encourage them to purchase the products.

The internship process is extremely impressive for me because the member of the host company is nice and friendly, just like getting along with friends. Therefore, I can truly enjoy the internship and experience the workplace culture of the Japanese firm. I will take the chance again to learn from this program if I have the chance.

インターンレポート② 香港都会大学 Mathis (Chiu Yik Chun)

At first, since I was not a native speaker of Japanese, I was scared to talk to others. However, through the interesting tutorial from Eriko San, I could express myself in Japanese and share my hobbies with them; it was very interesting that I could tell jokes to the Japanese, and we could laugh together.

In cooperating with the company Pietro, although the objective was difficult for us, they kindly accepted our opinion and adjusted the objective together. Also, at that time, we experienced the inconvenience of language. Since we could only express ourselves in limited Japanese, we could not share our thoughts well. Luckily, we found a method to gather our concerns and ideas later. I learned a lot about how to work as a team and how to balance concerns and thoughts with the internal client. Thanks to their effort, we were able to finish the project nicely.

To conclude, it was an unforgettable experience for me because I never thought that I can work in a Japanese company, and the culture and knowledge I learned helped me a lot in further career. Thank you for all the arrangements and hope we will meet again later.



香港特別行政区設立25周年記念 昼食講演会の開催について

2022年10月29日(土)、香港貿易發展局と山形日本香港協会の共催にて、「香港特別行政区設立25周年記念昼食講演会2022」が開催されました。今回の昼食講演会は、山形県、山形市、山形商工会議所、山形県商工会連合会の後援により開催され、山形日本香港協会が主催するイベントとしては、2020年2月22日の『理事会・総会/春節セミナー・パーティー』以来、約2年8カ月ぶりとなるオフラインでの開催となりました。会場となった山形グランドホテルには、60名にもものぼる方々より参加がありました。会員の方々のみならず、市町村長、県議会議員、行政関係者、海外とビジネスを行っている県内企業等、山形県内の幅広い職種・業種の方々からご参加をいただき、大盛況のうちに開催されました。来賓としては、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部のウィンサム・アウ首席代表代行、佐藤孝弘山形市長のご臨席、また、昼食会へのご臨席は叶いませんでしたが、中華人民共和国駐新潟総領事の孫大剛様より、お祝いの電報をいただきました。



会場の様子

昼食講演会の講師として、山形日本香港協会の会員より、仲野益美様（山形酒造組合会長、出羽桜酒造代表取締役社長、日本酒造組合中央会海外戦略委員長）と柴倉和典様（米沢市産業部商工課課長補佐兼企業立地推進室長）の御二方にご登壇いただきました。

仲野会長の講演では、演題を「山形酒と香港とのつながり ～山形を日本酒の聖地に～」とし、山形県産日本酒の香港をはじめとする海外輸出の現在地や戦略について、お話をいただきました。仲野会長が代表を務める出羽桜酒造株式会社は、明治25年（1892年）の創業以来、手造りにこだわって酒造りを続けています。全国新酒鑑評会12年連続金賞、世界一の称号「チャンピオン・サケ」に2度輝くなど国内外で高く評価されています。また、国内の多数ある酒蔵の中でもいち早く、1997年より輸出を本格的に開始しました。ヨーロッパ向けから始まった輸出は、現在ではアジア・米国へと広がり世界35カ



山形酒造組合仲野会長による講演

国以上に広がっています。

続いて、柴倉様からは、演題を「香港と米沢市との産業交流について」として、ご講演をいただきました。前号の飛龍101号で、米沢市教育委員会スポーツ課の神保葉子様よりご寄稿いただいたとおり、米沢市は東京オリンピック・パラリンピックにおける、フェンシング香港代表（男子フルーレ個人戦で張家朗CHEUN Ka Long選手が金メダル獲得）のホストタウンとして、香港との草の根交流をより一層深めています。また、米沢市を代表する名産品である米沢牛を使用した加工品の香港輸出を行っています。米沢市のこのような取り組みが、山形県内の他の市町村にも広がっていき、山形県と香港との結びつきが深まっていくことを期待したいと思います。

最後になりますが、「香港特別行政区設立25周年記念昼食講演会2022」の開催準備と当日の運営においては、香港貿易發展局、日本香港協会連合会の方々のご協力があり、盛況のうちに会を終えることが出来ました。この場をお借りして、御礼を申し上げます。

徐々に緩和されつつあるものの、新型コロナウイルス禍による影響は予断を許さないですが、今回のセミナーをきっかけとして、2023年度以降は、オンライン上だけでなく、オフラインでのセミナーや関連イベント等を開催していきたいと考えております。



ご来賓との集合写真

HOKKAIDO

北海道日本香港協会

北海道日本香港協会 事務局

新年好！ 明けましておめでとうございます。

2022年を振り返りますと、前年に引き続きコロナウイルスとの戦いに明け暮れる一年となりました。

1月には北海道における「まん延防止等重点措置」適用が決定され、その後解除となりましたが、北海道より「感染拡大防止に向けたお願い」が発出されるなど、行動に制限がかかり、観光・飲食業など大きな経済打撃を受けました。

また、2月にはロシアによるウクライナ侵攻により資源価格が高騰、円安の進行もあり消費者物価が上昇し、経済への影響が今後も懸念されるところです。

とはいいまでも世界がwithコロナにシフトする中で、日本もそれに向けて動き出しています。6月には団体ツアーが解禁となり香港からのツアー客が北海道入りし、観光を楽しみました。

10月には水際対策が大幅に緩和され、入国者数の上限撤廃、外国人の個人旅行の入国も解禁となりました。北海道と香港との関係において、みなさまも何より待ち望んでいらっしゃったかと思いますが、キャセイパシフィック航空の新千歳-香港の直行便が12月より再開されました。今後ますます香港との「人・物・金」の動きが活発となることを期待しています。

話は遡りまして、去る8月31日(水)に札幌グランドホテルにて、香港貿易発展局との共催で「香港特別行政区設立25周年記念 昼食講演会2022」を開催いたしました。

昼食講演会は、当協会の石水会長の開会のご挨拶に始まり、香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ日本首席代表

行政区設立25周年記念 昼食講演会2022 日(水) 札幌グランドホテル



北海道JHKS石水会長開会挨拶



会場の風景

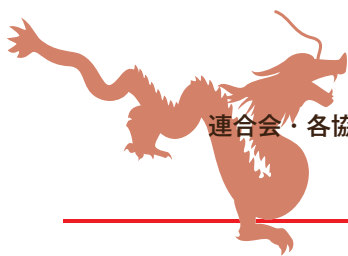
より歓迎のご挨拶を頂きました。また、来賓として香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部ウィンサム・アウ首席代表代行、小玉北海道副知事、秋元札幌市長（代読）よりご挨拶を賜り、中華人民共和国駐札幌総領事館劉総領事より乾杯のご発声を頂きました。

昼食・歓談ののち、札幌物産協会会長（池田食品株式会社・浜塚製菓株式会社）池田社長より「『美味しい笑顔』香港を通じて世界へ～北海道発菓子製造業の挑戦」と題したご講演を頂きました。お取引のある四洲集团有限公司（フォー・シーズ・マーケティング・ホールディングス）の戴会長よりカルビーとの合弁の経緯を聞いて感銘を受けたお話や、香港貿易発展局と出会ったことが香港への展開に役立ったことなど、含蓄のあるお話を頂きました。

香港貿易発展局伊東東京事務所長から「国際化のパートナー香港と香港貿易発展局の役割」と題したご案内を頂き、最後に当協会副会長の町田札幌市副市長より閉会のご挨拶を頂き、無事に終了することができました。特に香港貿易発展局のみなさまにはサポートを頂いたこと、この場で感謝申し上げます。



集合写真（左から北海道小玉副知事、ウィンサム・アウ日本首席代表代行、石水北海道JHKS会長、ベンジャミン・ヤウ日本首席代表、劉総領事、池田札幌物産協会会長）



香港特別行政区設立25周年記念 「昼食講演会2022」を開催

2022年9月15日(木)12時から「昼食講演会2022」をホテルモントレ仙台に於いて開催しました。残暑厳しい中、約60名もの参加者を得て、盛大に開催することができました。

当協会の小野寺初正会長の挨拶で幕を開け、香港貿易発展局日本首席代表のベンジャミン・ヤウ氏による歓迎の挨拶の後、来日して初めての地方出張で来県された香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部首席代表代行のウィンサム・アウ氏の来賓挨拶、そして議会開会日のため出席できなかった宮城県知事村井嘉浩氏のビデオメッセージによる来賓挨拶、同じく議会对応で出席できなかった仙台市長郡和子氏の来賓挨拶代読があり、仙台商工会議所副会頭の藤崎三郎助氏の乾杯の挨拶で昼食となりました。ホテルの美味しい昼食をご馳走になった後、2人の方に香港でのビジネス成功の鍵をご講演頂きました。



門間筆筒店・門間一泰氏による講演

い、これまでのいかなどから吊り下げる「垂下式養殖」から、生命力が強くなる潮の干満を利用した「潮間帯養殖」に変更、塩釜市浦戸諸島の生産者とタッグを組み、松島湾の殻付き活ガキを香港・世界に輸出できるようになったことが紹介されました。

その後、香港貿易発展局東京事務所長・伊東正裕氏と香港経済貿易代表部投資推進室長の橋場清子氏による事業紹介があり、最後に当協会大坪富雄代表理事の閉会挨拶で終了しました。

香港の25年の歩みを少しではありますが実感できた一日となりました。



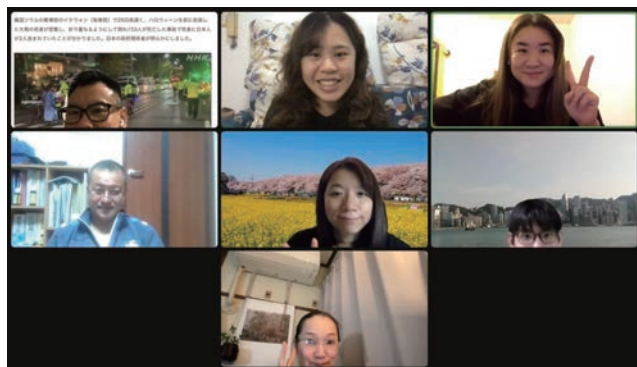
ご来賓との集合写真

はじめに登壇されたのが伝統的工芸品の老舗・(株)門間筆筒店の代表取締役門間一泰氏です。「日本の伝統文化を海外へ！」と題して講演、香港に店を開くまでの苦労話、香港での反響が大きく日本と香港の売上げが逆転したこと、そしてコロナの影響もあって賃料が安くなったこともあって、憧れのハッピーバレーに店を構えることができ、しかも着実に売上げを伸ばして、新たな事業にも着手している様子が紹介されました。

次に登壇したのが(株)ヤマナカ代表取締役の高田慎司氏、「新養殖法による松島湾の殻付き活ガキ、香港へ！」と題して講演、生の殻付き活ガキを香港に送っても死滅してしまうのに、欧米の殻付き活ガキがなぜ活きたまま香港で食されるのか、苦労して見つけたのが養殖方法の違

宮城学生部・元気に活動中！

2022年で活動2周年を迎えた学生部ですが、今年度も元気に活動を継続しています。4月は日本の桜や観光をテーマとして、5・6月合同会は日本の連休について、7・8月の回では、日本でも4Kレストア版が上映された王家衛（ウォン・カーウァイ）監督の作品について語る交流会がそれぞれ開かれました。9・10月では中秋節をテーマにして、それぞれの中秋節の過ごし方の予定を香港・日本それぞれの参加者が発表しました。今後も若い世代を中心に文化交流を継続してまいります。



学生部の香港宮城交流会の様子



OKINAWA

沖縄日本香港協会

沖縄日本香港協会

香港特別行政区設立 25周年記念 香港昼食講演会 2022 を開催！

1997年の中国返還から25周年を迎え新たな発展の段階に入った香港の現状やGBA（グレーター・ベイ・エリア：大湾区構想）、ビジネス・チャンスなどについて講演会を開催しました。

11月18日（金）、ホテルコレクティブにて、沖縄日本香港協会（会長：那覇商工会議所石嶺伝一郎会頭）と香港貿易発展局の主催による香港昼食講演会を開催しました。

今回の講演会は、感染対策を十分に行ったうえで開催され、香港現地の官界や財界関係者、沖縄日本香港協会の会員企業等、約50名の方々にご臨席いただき、久々のリアル国際交流の場となりました。

冒頭、沖縄日本香港協会の石嶺伝一郎会長が、「水際対策が緩和され人材交流が再開したこのタイミングで、講演会を開催することをうれしく思います。中国の特別行政区として25周年を迎えた香港は国際的なビジネス、貿易、金融のハブとして、ビジネス統轄拠点などにより中国本土や東南アジアを結ぶ要として、その機能を発揮し続けており、ビジネスや企業の生産性向上、企業価値の向上に活かされるとともに、香港と沖縄の更なる交流・発展に繋がれば幸いに存じます」と開会の挨拶を述べられました。



会場の様子

その後、香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ日本首席代表による歓迎挨拶の後、香港特別行政区 駐東京経済貿易代表部のウィンサム・アウ首席代表代行、沖縄県の松永享商工労働部長にご祝辞をいただき、沖縄日本香港協会の國場幸一前会長による乾杯のご挨拶で幕を開けました。

昼食後には、味珍味（香港）有限公司フランキー・ウー会長による「香港における日本食ビジネスの未来と沖縄



味珍味（香港）有限公司フランキー・ウー会長の講演

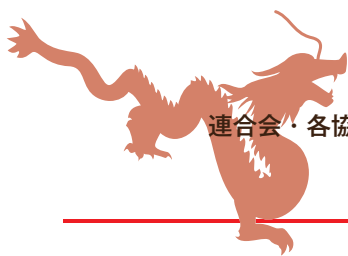
の可能性」と題して講演を行い、香港市場における日本食に対する需要動向と取り組みについてお話しいただきました。

続いて、香港貿易発展局大阪事務所のリッキー・フォン所長から「香港GBA（大湾区）の今を知る」と題し、最新の香港の経済状況及び香港を取り巻く広域経済圏の発展動向についてプレゼンテーションが行われました。「今後の中国の経済成長における重要な役割を担うGBAは、香港・マカオ・広東9都市の地域発展計画で、域内人口は8,600万人、GBAのGDPは約1.7兆米ドルとなります。2018年に高速鉄道と香港珠海澳門大橋が完成し、2024年には深圳から中山へのバイパスが完成予定となっています。第三滑走路が完成した香港国際空港と航空路線の進化や交通の利便性向上とも合わせ香港・GBAのマーケットはさらなる進化が見込まれています」と、ご講演いただきました。

その後、インベスト香港（香港投資推進局）の中田武正西日本担当コンサルタントから、「コロナ禍でも香港で成功している日本企業」の事例等をご紹介いただき、最後に沖縄日本香港協会の下地芳郎副会長より締めめの挨拶があり、講演会は大盛況のうちに幕を閉じました。



ご来賓との集合写真



香港特別行政区設立25周年記念 香港昼食講演会2022

広島日本香港協会では、2022年10月4日(火)にシェラトングランドホテル広島にて、「香港特別行政区設立25周年記念 香港昼食講演会2022」を開催いたしました。昨年は各地の協会と同様の講演会が行われましたが、広島は全国11の香港協会のうち、7か所目の開催となりました。

本講演会は、当協会と香港貿易発展局との主催、独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）広島貿易情報センター、独立行政法人中小企業基盤整備機構中国本部、広島商工会議所、公益財団法人ひろしま産業振興機構による後援、及び香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部による協賛により、実施いたしました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

長く新型コロナウイルスの影響で会員の皆様と直接お会いすることができておりませんでした。食事形式に限れば、2019年8月以来3年ぶりの開催となりました。約半年前より準備を進めておりましたが、感染者数の推移を注視しながらも、無事開催することができました。

本講演会では、当協会の池田晃治会長の開会挨拶から始まり、続いて香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ首席代表の歓迎挨拶、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部 ウィンサム・アウ首席代表代行と中国経済産業局青木朋人局長による来賓挨拶、そして広島県商工労働局川口一成局長による乾杯挨拶が行われました。

その後の歓談後、まずは、味珍味（香港）有限公司のフランキー・ウー会長に、「香港における日本食ビジネスの未来と広島の可能性」についてご講演いただきました。フランキー・ウー会長の略歴を簡単にご紹介しますと、

1981年に味珍味（香港）有限公司を設立され、1982年には、香港日本料理店協会を設立し会長に就任されるなど、香港において、日本の食品を紹介するパイオニアとして活躍されてきました。日本の農水産物を普及させるなどの功績により、2006年に農林水産大臣賞を受賞、さらに2009年に旭日双光章、2020年には旭日小綬章と、2度の叙勲を受けておられます。



味珍味（香港）フランキー・ウー会長のご講演

講演では、香港向けの輸出や香港小売業第三次革命についてお話いただきました。香港向けの輸出では、主に鶏卵の例を取り上げられ、味珍味（香港）有限公司と広島県企業とのお付き合いは2009年より始まり、日本全体の鶏卵の輸出においても、2011年以降、輸出量・輸出額ともに、増加し続けているとのことでした。また、全国の中でも広島県からの輸出量・輸出額が第一位で、今後更なる伸びが期待されております。香港では2015年から、11月5日を「いい(11)たまご(05)の日」とし、日本国内の鶏卵の生産状況や衛生管理、品質管理の厳しさを紹介し、香港人に日本産鶏卵への認識を深めています。香港小売業第三次革命では、DON DON DONKIやマツモトキヨシを紹介され、オープン時には長蛇の列となり、多くの注目を集めたとのことでした。香港においても、日本の食品や化粧品、医薬品などがより身近に感じられるようになっているようです。

続いて、香港貿易発展局大阪事務所長のリッキー・フォン様に「香港・GBA（大湾区）の今を知る」と題して、ご講演いただき、インベスト香港西日本担当コンサルタントの中田武正様からは「インベスト香港からのお知らせ」がありました。

そして最後に、当協会の寄谷純治副会長の閉会挨拶をもって、講演会は終了となりました。

現状、立食形式での交流が難しいなど、制約も残っていますが、緩和も徐々に進んでおり、今後は会員の皆様の交流が密に図れることを願っております。今後とも、当協会へのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



池田会長開会挨拶



ウィンサム・アウ首席代表代行ご挨拶

香港における日本産米の情勢について

1. はじめに～クボタ日本産米輸出事業の取組み

お米は、全世界で1年に約5億トン生産されており、中国が最も多く、インド、バングラデシュ、インドネシアなどのアジア各国が続き、日本は9番目に位置する世界有数の米の生産地です。

アジア圏を中心とした国々では経済成長や人口増加が著しく、世界全体の食市場は拡大傾向と推計されますが、少子高齢化と人口減少、食の多様化が進む日本において、米消費は年約10万トンのペースで縮小傾向にあります。国内市場の縮小は避けられず、日本での米生産を維持する為には、海外市場での日本産米需要の拡大が必要です。この様な状況の中、クボタグループは海外における日本産米市場拡大による国内生産の維持だけではなく、「安心・安全・新鮮な日本産米」を海外のお客様にも安定的にお届けする事を目的として、玄米輸出・現地精米による「日本産米輸出拡大事業」を立ち上げました。2011年香港に日本産米の輸入・精米・販売を行う現地法人を設立、更なる拡大を図る為2013年にはシンガポールとモンゴルに日本産米の玄米輸入・現地精米・販売を行う現地法人を設立しました。

（株）クボタは1890年創業の機械メーカーであり、トラクタ、コンバイン、田植機等の農業機械の他、人々の生活を支える上下水道整備に欠かせないダクタイル鋳鉄管（水道管）、ポンプ、バルブ、排水処理に必要な過装置等の製造販売も行っています。また、ICTやIoTを活用したスマート農業等の研究開発や製品供給を通じて日本農業のみならず、世界の農業に必要とされる農業機械の販売・サービスの提供を行っています。これまで海外のお客様には機械やインフラ関連の商品の供給に留まっていたことが、本事業の立ち上げにより、日本と同じ品質の日本産米を海外でも提供する事が出来る様になりました。

2. 香港市場の特徴

日本国内市場は、米消費量の約6～7割が小売販売（家庭内で調理される）で消費されており、残りの約3～4割がレストランなどの外食産業で消費されています。小売販売の比率が高く、販売量拡大にはブランドの確立、食味評価の向上に繋がる施策を生産段階から取り入れ、販売においても大手スーパーとの契約による販路の拡大等、家庭内消費向け施策が中心に取り組まれている傾向が強いと考えられます。

一方、100%輸入に頼っている香港市場では、米消費量全体の約9割が外食産業において消費されていると考えられます。日本国内市場とは異なり、日本産米需要拡大には外食産業が求める「米の品質」「価格」「供給体制」などに対応する施策が求められると考えられます。

3. 香港市場の動向

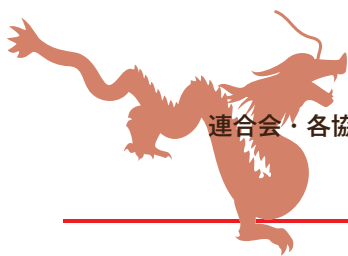
先にも述べた通り、香港における米の消費の殆どが外食産業におけるものであり、レストランを中心とした外食産業での日本産米需要の拡大が必要です。2012年に香港での日本産米の現地精米・販売事業を開始した際には、日本国内と同様な「ブランド力」や「食味」を意識した販売活動を行いました。コストを重視する外食産業では中々受け入れられず、殆ど売れなかった苦い経験があります。

市場性や他国産米の分析等を行い、日本国内の米生産農家や行政と協業しながら、輸出向け専用品種の栽培契約や、効率的な物流などを取り入れ、海外のお客様に適した品質・価格の日本産米を提供する事で、2021年度の販売量は事業を開始した2012年比で約80倍の2,200トンを達成する事が出来ました。また、2020年からのコロナ禍では外食産業における店内飲食の禁止、座席制限などの規制による需要の減少に繋がる事が懸念されましたが、逆に、中食を中心とした持ち帰り需要の拡大によって、「冷めても美味しい」日本産米が評価され需要が増加する状況となりました。これはクボタグループが取り組む現地精米での新鮮かつ安定供給体制の確立のみならず、日本産米が持つ「美味しさの力（低タンパク・低アミロース）」が香港市場でも認められた結果と考えられます。シンガポールでも同じ状況となっている事から、今後も日本産米が持つ「美味しさの力」を海外のお客様にご理解頂く事で更なる需要拡大に繋がると信じています。

4. おわりに

国内需要は、毎年約10万トンずつ減少している事は事実であり、昨今のコロナ禍による外食産業需要の低迷など、日本産米を取り巻く国内状況は、生産を安定させるどころか、先行きが見えない状況が続いています。一方、少しだけ視線を海外に向ければ、世界には大きな米市場が広がっている事は間違いありません。海外市場を日本国内市場の延長と考えるのではなく、現地需要を丁寧に分析し、「いつ、誰に、どれだけ、幾らで販売するのか？」を明確にとらえ、生産段階から輸出をターゲットに取り組むマーケットイン型の取組みを行っていく必要があると強く考えます。

農産物輸出の取組みは、今後の日本農業の発展には不可欠です。世界人口は拡大を続け、大きな農産物市場が広がっています。日本国内における農業支援のみならず、世界中の皆様が安心・安全な日本産米を安定的に供給できるよう、クボタグループは日本の農家、行政の皆様と総力をあげ、更なる海外販路の拡大に取り組んで参ります。



新年好！

皆さまいかがお過ごしでしょうか。

コロナの影響もいよいよ丸3年が経ち4年目を迎えました。ビジネスにおいても多くの業界が大きな「変化」を遂げる時期だったと思われま

す。2022年7月に予定していた総会も12月に延期いたしました。また、全国的な旅行支援のお陰もあり、会員の多くがサービス業である高知協会ですが、年末に向けて賑わいを取り戻しました。その様子は次号でお伝えしたいと思います。



桂浜を目の前にハマスイ玄関



ハマスイスタッフたち。皆ほんとに仲よしです

として地元からも愛されてきました。高知で生まれ育った人は、必ず1度は訪れたことがあると言われており、歴史の長さからも愛されてきたのを窺えます。桂浜水族館、略して「ハマスイ」。実はこのハマスイ、水族館では珍しい女性館長なのであります。全国でも珍しい女性館長として敏腕を振るうのは秋澤志名さん。高知日本香港協会の理事としてもご活躍をいただいております。

現在Twitterフォロワー数24万人という超人気の水族館で、ねとらば調査隊の「あなたの好きな水族館はどこ？」アンケートでは2年連続の日本一という快挙を成し遂げています。

高知の観光にも欠かせない位置づけのハマスイ。実は85周年を迎える前年には、ベテランスタッフの総上がり、いわゆる一斉退職の危機に遭遇し、閉館を危ぶまれる事態に陥りました。その時に副館長として就任されたのが、現館長の秋澤志名さんなのです。若手と僅かなベテランスタッフしかいない中、しかも入館者数は毎年激減の一途を辿る、まさに窮地中の窮地。そのどん底にありながら、「なんか変わるで！桂浜水族館」をコンセプト

さて、冒頭に申し上げました「変化」につきまして、今号では高知県のみならず全国の水族館ファンから一目を置かれている桂浜水族館についてご紹介いたします。公益社団法人桂浜水族館は、昨年創業90周年を迎えた、民間水族館として日本一歴史が長く、日本一小さな水族館

トに、経営改革に乗り出します。

さて、何から始めるか。館長がまず目をつけたのがSNS。当時のハマスイのSNSは、Facebookのフォロワー数、僅かに10人。Twitterに至ってはフォロワー数3人という、情報発信力ゼロという絶望感、もう気が遠くなる現状。そんな中にありながら、スタッフの仕事ぶりや、客が来ない自虐ネタなど、本音の投稿をはじめ、少しずつフォロワー数が増え始め、でもこれだけではパンチがない。と考え、ゆるキャラの制作に着手します。世界で活躍する高知出身のフィギュアイラストレーターのデハラユキノリ氏にお願いし、当時新しく仲間入りしたトドの女の子をモチーフに「おとどちゃん」が誕生。さらに85周年という節目の年というチャンスもあり、ここから一気に加速し始めます。おとどちゃんが発するTwitterは、菌に衣着せぬ物言いと、自虐ネタ、炎上ネタがファンの心をつかみ、日に日にフォロワー数が大きく増え始めます。



ペンギン団地も人気です



動物たちも飼育員が大好き

そんな頃、日本香港協会と出会います。元々、森本高知協会長と仲良しということもあり、香港ビジネスツアーにも率先して参加。会員と香港の人脈を活かして、香港ナンバー1の旅行会社EGLとも良好な関係を築き、高知旅行としてインバウンドの誘致にも成功しました。今では毎月多くのメディア出演依頼が舞い込み、InstagramやYouTuberでも大活躍のハマスイ。高知観光が激減する中においても右肩上がりの結果を打ち出しております。そんなハマスイは、高知一の観光地と言われる桂浜公園内に位置しますが、今般、桂浜公園は大リニューアルをされました。桂浜観光が低迷を続ける中、集客をし続けてきたハマスイ。一新された桂浜公園が追い風となり、今後益々活躍されることと思います。

高知にお越しの際には是非ともお立ち寄りいただき、美人館長と楽しいスタッフと共に桂浜を満喫してください。あ！世界に誇る坂本龍馬さんの銅像もお忘れなく。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



秋澤館長とデハラユキノリ氏



飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

中京日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル2階西
(株)Sola.com 内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301
株式会社オトル内



古来から珍重されてきた、日本が誇る高級食材「干し鮑」。その中でさらに厳選されたブランド鮑が「吉品」鮑です。ご自宅でもつちりと煮込んで贅沢グルメをご堪能ください。



広東料理の高級食材とされる。ツバメの巣は世界中で高い人気を誇る食材となっております。



お世話になった方や家族、親しい方への贈り物にも最適です。



昭和42年、東京にて食肉小売店を開業。その後、香港から食材の輸入を本格的に開始し、広東料理店や百貨店、ホテルなどに、高品質な食材を提供し続けます。コロナ禍を機に個人向けの販売もスタート致します。特に「香港の食文化を、正しく紹介したい!」という熱い想いを込めて自社開発した雲吞麵や一人ごはんにちょうど良い「文記のご飯シリーズ」などは、本場・香港の味の完全再現にこだわっており、香港人にはもちろん、香港好きの日本人にも広く愛されております。

株式会社ヨネチク

〒162-0062
東京都新宿区市谷加賀町2-3-7
Tel:03-3269-7729
●東京メトロ「牛込柳町駅」徒歩6分
●東京メトロ「曙橋駅」徒歩10分
●JR総武線「市ヶ谷駅」徒歩16分



Coupon Code:

GSJZFX9FW847

●Online Shop 限定
●対象商品5000円以上のお買い物で10%OFF。
●3/31(金) 23:59まで
●予定数に達し次第、予告なく終了場合がございます。



↑↑↑
Coupon
使用する